

## 二〇二四年度入学試験問題

## 国語 (六〇分)

## 注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子は開かないでください。
- 二、この問題冊子は24ページあります。試験中、ページの脱落等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 三、解答用紙(マークシート)の汚れなどに気づいた場合も、同様に知らせてください。
- 四、解答用紙(マークシート)は折り曲げたり、汚したりしないでください。
- 四、解答は、すべて解答用紙(マークシート)に記入し、解答用紙(マークシート)の枠外には、なにも書かないでください。
- 五、解答番号は、1～40まであります。  
解答用紙(マークシート)には、問題番号が1～50、選択肢が①～⑩まで印刷されていますが、解答にあたっては、各設問に指示された選択肢の数の中から選んで解答してください。
- 六、マークは必ずHBの黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、完全に消してからマークしてください。
- 七、監督者の指示に従って、解答用紙(マークシート)に解答する科目・受験番号をマークするとともに、受験番号および氏名を記入してください。
- 八、解答する科目、受験番号、解答が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 九、試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

## 問題一

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

(注<sup>1</sup>) カルロ・コッローディ(一八二六—一八九〇)作『ピノッキオの冒険』にかんしてもっとも興味深い質問は、「この作品を生かしつづけるものはなにか?」である。現代の批評家や読者が大いに推奨する良質の子どもの文学の原則に照らすと『ピノッキオの冒険』はじつに不愉快である。教訓的で、道徳的で、くだい。子どもの主人公が、厳しい試練とチジヨクと説教の長く続く過程をへて、徹底的に清教徒的な自己嫌悪と、遊びや娯楽の拒絶にいたる物語である。その道程では、たえずノイローゼのような罪の意識や不安でいっぱいになったり、おびえて正気を失ったりする。

だが、『ピノッキオの冒険』は楽しい物語として生き残り、絶版にもならず、文学史やアンソロジーでもかなりいい位置にいる。なぜ? どうして? 謎である。

安易な答えは、ピノッキオは古典的でないはずらつ子像を表わし、「いたずらは誰でも好きだから」というものである。だが、この場合、こんな単純な答えは間違いである。ピノッキオはいたずらつ子ではない。冒頭に、ジェットトじいさんやサクランボ親方をからかうようなエピソードがいくつもある。しかし、それらは、この物語のしつこいテーマに入りこむためにコッローディがつけた道筋にすぎない。それ以後ピノッキオは、腕白ないたずらなどいっさいしていない。いたずらは、迷惑それ自体のための迷惑を引き起こす。だが、ピノッキオは誰かに迷惑をかけたとは思っていない。彼はただ楽しみ、自分を愛しているという人に認められたいだけである。彼は早くも九章で、ジェットトに買ってもらった教科書売りたい、ユウワクに負けるが、そのときも「針のむしろ」にいる気分で「ぐずぐずと後悔」している。火食い親方とあやつり人形の一座に出会ってすぐに、ピノッキオはもう自分の不道徳を悟り、悔恨する。

ぼくはほんとうに悪い息子だったし、しゃべるコオロギが「いうことを聞かない男の子には世間でいいことがなにもない」といったのは正しかった。身にしみてわかったよ。だって、とてもたくさん不幸がぼくにふりかかってきたから。

彼はキツネとネコの仲間になる。それは、五枚の金貨を手品のように二五〇〇枚にでき、「そしたら、お父さんは明日には大金持ちになる」と信じこまされるからである。

物語を通して、このパターンは続く。ピノッキオは愉快にすごそうとし、ジェットトや青い髪の仙女の自慢になろうとするが、やり方があさはかなので結果的に悪魔のカタログに載っているような身体的な責め苦を受けることになる(しばり首にされて意識を失っ

たり、金属の罫わなにかかつて番犬代わりにされたり、ロバに変えられてぶたれ、溺れかけたりする。調理されて食べられそうになったのは二回、魚にも二回食べられる。彼はこうした不幸に耐えているあいだも、「お母さん」や「お父さん」からだめな子と思われるだろうと考えて苦しむ。

麻痺まひしたようにぼうっとなつているピノッキオの心を、ひとつの残酷なトゲが突き刺した。それは、善き仙女のいる窓の下を、銃騎兵たちにはさまれて通らなくてはならないという考えだった。ピノッキオは、死んだ方がましだった。

自分にはなんの価値もないという叱責しせの声がとりついて離れない。悪事をはたらく意図はなかったにもかかわらず、彼は、自分にふりかかることはすべて当然の報いなのだと思う。

ぼくがみんなのようにいい男の子だったらよかったのに。喜んで勉強したり働いたりできたらよかったのに。かわいそうなお父さんと一緒に家にいられたら、いまごろ野原の真ん中でお百姓さんの家の番犬をさせられることもなかったはずなのに。ああ、生まれ変わることができたらなあ！

青い髪の仙女が「あなたの真心からの悲しみから、あなたが良い心をもっていることがわかります」と語るように、彼の中でもっとも価値ある道徳的美点は、自責の念をいなく能力である。

ピノッキオは、親が子を脅す昔ながらの方法で自己嫌悪させられる。それは、空想と魔法でわずかに装飾されているだけである。ジエツペットから「息子」への主たるメッセージは、自分はピノッキオがいい子になることだけを願ってなにもかも犠牲にしてきた、というものである。ピノッキオの冒険の本筋でジエツペットがなう役割は、いつもピノッキオの意図せざる「裏切り」の犠牲者として、遠く離れたところで苦しみ、息子が罪悪感をおぼえる原因になることだけである。

ピノッキオの「お母さん」である青い髪の仙女は、ピノッキオの心をさらに巧妙に打ち砕く。一番ひどい冗談は、ピノッキオの素行がよくないのを悲しんで死んでしまったというもので、お墓にはこのような墓碑銘が遺のこされる。

弟のピノッキオに捨てられ

悲しみのあまり死んだ

青い髪の子ども

ここに眠る

あらゆるところで、仙女はピノッキオをもてあそぶ。彼にはなかなか到達できない目標として、やさしく彼を保護してくれる女性のイメージをいだかせるが、彼がショウソウ感の中で身もだえしていても、敵に襲われても放っておき、ついには彼を完全に不幸にする。ピノッキオはいう。

彼女はぼくのお母さんだ。子どもを愛し、決して目を離さず、その子が愚かで悪いことをしたせいで、捨てられて一人ぼっちにされても文句がいないようなときですら優しく助けてくれる、すべての良きお母さんに似ている。

仙女はピノッキオがロバに変えられ、鞭で打たれ、海に投げこまれても放っておく。しかし、「ぼくが溺れて危ないのを見るとすぐに、巨大な魚の群れを送ってくれた。けれど、魚はぼくが本当に小さな死んだロバだと思って、食べはじめてしまった」。愛情深い母の気遣いの象徴として、これはどんな文学作品が描くものにも負けない奇怪さを暗示する。

ピノッキオがついに「本当の生きた男の子」になる物語の結末は、彼がそれまでに身につけた自己嫌悪の心と、自然な活力の抑圧を完璧に形象化する。彼は、文字どおり新しい自分になり、古い自分を捨て去る。ぴかぴかに作りなおされた「いい男の子」のピノッキオはたずねる。

「木でできた昔のピノッキオは、どこに隠れてしまったんだろう?」「そこにいるじゃないか」とジェツペットが答えて、大きな人形を指さした。それは椅子にもたれて、頭ががっくりと垂れ、腕がもつれ、足はきちんと立っていたのが奇跡と思えるほどぐにやぐにやに曲がっていた。

ピノッキオはふり向いてそれを見た。そして、少しのあいだ見た後で、深く満足して独りごとをいった。

「ぼくは、人形だったとき、なんてばかだったんだろう! おギョウギのいい小さな男の子になって、なんて嬉しいことだろう!」

十九世紀ヨーロッパの主流な道徳心理の中での『ピノッキオの冒険』の位置づけは、この短い記述からだけでもすぐに理解できる。素直にいつてこの物語は、いいつけを聞かない愚かな性質をもって生まれた人間が厳格な教育を受けてやっと見苦しくないふるまいができるようになる話と考えられる。フロイトでいうなら、これはピノッキオに快楽を求めさせようとするイド（キツネ、ネコ、ろうそくの芯、学童たち、イタチなど）と、従順に働いて満足せよと説く超自我（ジエツペット、青い髪の仙女、しゃべるコオロギなど）が衝突する話である。コッローデイの図式では、超自我の命令に耳を傾けてそれを内面にとりこみ、イドの衝動を排撃・抑制するところから立派な自我あるいは自己が生まれる。

しかし、ヴィクトリア朝時代の道徳主義に眉をひそめ、『ピノッキオの冒険』のような徹底的な娯楽批判に首を傾げる現代の読者にとって、この話のどこが楽しいのか、というのが疑問である。

読者がコッローデイの教訓的目的を見落とすことはありえない。この物語には、タイタの悪、労働の必要性、反抗の愚かさ、学校の価値などについてあからさまな説教があふれかえっている。奇妙で超現実的で「ノンセンス」な出来事や登場人物で飾られているならこの種の道徳的説教も子どもの娯楽として読めるといふ考えを、多くの読者ははつきり認めている。話の面白さは、妖精物語的な奇怪さにあると考えられる。

つまり（この論理でいくと）、『ピノッキオの冒険』では、普通に夢で見る出来事は状況が正反対になる。夢の中では、良心に支配された精神にはとても認められない思想や願望が無意識に解放される。これらの思想や願望に同意するにあたり、精神は、検閲（精神分析における「検閲」とは、無意識的願望が意識に入ってくるのを抑制する機能）を逃れるために暗号あるいは象徴という記号にする。夢の中の出来事が異様なのは、下品な意味あいを隠して良心的なものにするためなのである。しかし、コッローデイは『ピノッキオの冒険』にきわめて道義的な目的をもたせている。話の出来事全体に道徳的な検閲が働いているので、明白な主題は何一つ隠す必要がない代わりに、通常なら悪い考えをいいものに見せるための工夫（奇怪なイメージに置き換えるなど）は、ここでは正反対の目的に使われる——善良な考えが、我慢ならないほど堅苦しく退屈に思われなようにすること。本に遊びの風味を添えること。これは少なくともその重苦しい道徳主義にもかかわらず、『ピノッキオの冒険』があたりまえのように愉快で元氣な作品だと考えられ、人気がおとろえない理由の基本的論拠になると思われる。

しかし、この理屈では『ピノッキオの冒険』の真実に触れられない。『ピノッキオの冒険』は、楽しい気分といたずらなユーモアという糖衣にくるまれたよき助言でなりたっているわけではない。禁じられた自由や自己本位性や無作法な行動の面白さがユーモアに趣をそえているのではない。作中で本当に楽しく愉快なのは、男の子が信じられないほど奇怪な形で罰を与えられることである。実際、『ピ

『ピノッキオの冒険』の本質は、悪魔祓<sup>ばら</sup>いや悪人への懲罰から得られる快感にかかっている。究極的に、この作品の超現実性は、不愉快な感情の隠匿というまさに夢の象徴性と同じ源泉から生まれている。なぜなら、『ピノッキオの冒険』の道徳主義は厳しすぎて安らぎがないからである。この作品には、真の悪意がある。コッローディの超現実性は、その悪意を隠すためのものなのである。

(チャールズ・フレイ&ジョン・グリフィス 訳者／鈴木宏枝<sup>ひろえ</sup>『子どもの本を読みなおす』による)

(注) 1 カルロ・コッローディ……イタリアの作家。

- 2 アンソロジー……異なる作者による作品を集めたもの。選集。
- 3 ノンセンス……無意味なこと、ばかげたこと。ナンセンス。

問一 傍線部 a 「じつに不愉快である」とあるが、それはなぜか。次の 1～4のうちから適当でないものを一つ選びマークしなさい。

解答番号は 。

- 1 露骨に教訓めいた物語が練り広げられ、説教じみているから。
- 2 遊びや娯楽を徹底的に批判する内容で、現代の価値観に合わないから。
- 3 ピノッキオが不幸に見舞われ自己嫌悪する姿がしつこいほどに描かれているから。
- 4 ピノッキオが軽薄な行動を繰り返し、人に迷惑をかける悪童だから。

問二 傍線部 b・d・h・j・lと同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は     。

b 「チ<sup>チ</sup>ジ<sup>ジ</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>ク」

- 1 チ<sup>チ</sup>ケン<sup>ケン</sup>を広げる。
- 2 シ<sup>シ</sup>ウ<sup>ウ</sup>チ<sup>チ</sup>心<sup>心</sup>を捨てる。
- 3 チ<sup>チ</sup>マ<sup>マ</sup>ナ<sup>ナ</sup>コ<sup>コ</sup>になつて探す。
- 4 あの人は運動オンチ<sup>チ</sup>だ。

d 「ユウワク」

- 1 ユウズウがきく。
- 2 ユウチヨウに構える。
- 3 ユウエツ感に浸る。
- 4 保険のカンユウをする。

h 「シヨウソウ」

- 1 冬場はカンソウする。
- 2 ブツソウな事件。
- 3 ソウバより安く買う。
- 4 自転車ソウギヨウ。

j 「ギヨウギ」

- 1 ギコウを凝らす。
- 2 ベンギを凶る。
- 3 オンギを感じる。
- 4 古くから続くギシキ。

1 「タイダ」

- 1 意向をダシンする。
- 2 ムダを省く。
- 3 ダミンを食る。
- 4 その一言はダソクだ。

問三 傍線部 c 「安易な答え」とあるが、筆者が「安易」というのはなぜか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 7。

1 ピノッキオがいたずらっ子であるがゆえに人々が共感するという答えは、ピノッキオの人物像を適切に捉えておらずいい加減な意見だから。  
2 ピノッキオがいたずらっ子であるがゆえに人々が愛着を持つという答えは、ピノッキオの本心を正確に捉えておらず失礼な意見だから。

3 ピノッキオはいたずらっ子でいたずらは誰でも好きだという答えは、いたずらの本質を理解していない的を外れた意見だから。  
4 ピノッキオはいたずらっ子でいたずらは誰でも好きだという答えは、物語の核心にせまっていない表面的な意見だから。

問四 傍線部 e 「針のむしろ」の意味はどれか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 8。

1 自分には責任が大きすぎる場面

2 気が休まらないつらい場所

3 先の読めない危険な状況

4 またとない絶好の機会

問五 傍線部 f 「やり方があさはか」とあるが、それはどのようなことか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 9。

1 他人の話をろくに聞いておらず無鉄砲なことばかりするということ。

2 人の言葉の裏ばかり考えて失敗してしまうということ。

3 他人の言葉を鵜呑みにして目の前の出来事を信じてしまうということ。

4 人を利用しようと思ったら反対に利用されてしまうということ。



問六

傍線部g「ジエツペットがなう役割」とあるが、それはどのような役割か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 10。

- 1 自分はピノッキオのために尽くしてきたにもかかわらず、ピノッキオは理想的な姿ではないと嘆いて、ピノッキオに自責の念を抱かせる役割。
- 2 自分がピノッキオのためにいかに尽くしてきたか伝え、ピノッキオに裏切られた苦しみをあえて見せることで、ピノッキオが犯した罪を償わせる役割。
- 3 ピノッキオのためになにかも犠牲にし、ピノッキオの失敗や期待外れの行動にも耐え抜いて、ピノッキオに善悪を理解させる役割。
- 4 ピノッキオのために多くの犠牲を払ったにもかかわらず、ピノッキオがいい子でないと落胆するふりをして、ピノッキオを成長させる役割。

問七

傍線部 i 「奇怪さを暗示する」について、Mさんは本文をもとに次のようにまとめた。空欄 I・II に入る語句はどれか。あとの 1〜4のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は 11・12。

仙女は

I

人物と捉えられていることをふまえると、

II

と筆者は考えているのではないか。

(I)

- 1 ピノッキオには自分を守ってくれる「お母さん」のようだと慕われているが、ピノッキオを執拗しつようにいじめる
- 2 ピノッキオには優しく助けてくれる存在だと思われていながらも、実際はなにもせずピノッキオを苦しめている
- 3 ピノッキオに「お母さん」と愛され信頼されていることに応えるため、ピノッキオを助けようと苦心する
- 4 ピノッキオに思われているように優しく保護してくれる存在である一方、冷淡に試練を与える

(II)

- 1 ピノッキオを助けるつもりがあつたのに仙女自身が行かなかつたことを「奇怪」と表現しており、愛情を持った「お母さん」というのはピノッキオの妄想で、気遣いで仙女が「お母さん」のふりをしている
- 2 溺れたピノッキオをさらに危険に陥れる巨大な魚の群れを送つたことを「奇怪」と表現しており、仙女がピノッキオの成長を願つてした行為が、度を超えてピノッキオを追い込んでしまった
- 3 ピノッキオを助けるはずの巨大な魚の群れがピノッキオを食べてしまったことを「奇怪」と表現しており、本当は仙女はなにもしておらず、ピノッキオが巨大な魚の群れを仙女の気遣いだと思いついてしまった
- 4 ピノッキオを助けるために送られた巨大な魚の群れがピノッキオを苦しめたことを「奇怪」と表現しており、仙女の気遣いがピノッキオにうまく届かず、不本意ながら母と子がすれ違う結果に結びついてしまった

問八 傍線部k「『ピノッキオの冒険』の位置づけ」とあるが、『ピノッキオの冒険』はどのような教訓を伝えているか。次の1〜4の

うちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は13。

- 1 好き勝手をしてなまける人間は愚かで、教育者の言うことに従って働き勉強する「いい子」にならない。
- 2 快楽を求める本能を律して試練を乗り越え、社会に貢献することのできる「いい子」になることが人間の本質である。
- 3 どんなに無知で愚鈍な人間であっても、近代的な教育を与え訓練することで道徳的な「いい子」に変えることができる。
- 4 娯楽や遊びへの衝動に打ち勝ち、成長の機会を得て社会から認められる「いい子」になることはこの上ない喜びである。

問九 傍線部m「妖精物語的な奇怪さ」とあるが、筆者は『ピノッキオの冒険』において、「妖精物語的な奇怪さ」がどのような役割

を果たしていると考えているか。次の1〜4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は14。

- 1 現実では異様と感じられるものを夢の中で許容できる作用のように、本来は良心によって拒絶されるであろう悪意や下品な願望などを象徴化する手助けをしている。
- 2 どれだけ道徳的で真面目なメッセージを備えていても、面白さやユーモアで軽妙さを付与すれば人々は娯楽性の高い物語として受け入れるということを証明している。
- 3 愉快で楽しい印象を与えて娯楽であることを強調し、道徳的内容と対峙<sup>たいじ</sup>することを回避させて説教くさいメッセージを読み手に抵抗なく受け入れさせている。
- 4 教訓的なメッセージを覆い隠して道徳的な厳しさを薄れさせるだけでなく、ピノッキオに罰を与える様子を楽しむという悪意ある構造を巧妙に隠している。

## 問題二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

なぜ<sup>a</sup>西欧は伝統的に対立概念的な物の見方をするかといえば、山本氏<sup>(注1)</sup>によれば、西欧の一神教的世界では「絶対」なのは唯一無二の神だけなので、他は徹底的に相対化してしまうという。また、後程詳しく述べるが、西欧人は感情と現実(論理)を明確に区別し、論理的思考に優れているという特性があるので、感情と対象(現実)が完全に一体化し、対象への感情移入が絶対化するということが、日本人と比べると極めて少なく、よって「空気」に支配されにくい精神的構造があると考えられる。

それに対し、日本人は共感性を重んじる。つまり自分と他者を同一視する傾向があるため、自分と対象が不可分であるほど感情移入しやすい。前章でも述べたように、このような日本人が共感性を大切に作る気質は八百万<sup>やおよろず</sup>の神々といったアニミズム<sup>(注2)</sup>的世界観に由来する気質である。そして、山本氏いわく<sup>b</sup>アニミズム的世界観には、「一神教的世界観と異なり、「原則的にいえば相対化はない」という。その代わり、八百万の神々という数えきれないほどの数の絶対化する対象が存在している。なので、うまくいけば、仮にある対象を絶対化した感情移入のもと捉えても、その対象が次々と移り変わることで「絶対的对象が時間的経過によつて相対化できる」というのだ。つまり、日本人にとつて絶対的なものはひとつに限定されない。

A

時と場合によつてAという絶対的存在からBという絶対的存在に素早く移ることができる。

その例として、山本氏は、「経済成長」を絶対化していたのに、次の瞬間には「公害問題」を絶対化して、そしてその次には「資源」を絶対化してきた戦後の日本が歩んできた一場面を挙げている。「空気」に支配されやすい日本人の典型である。テレビをつけると、どのチャンネルも我先にと同じ報道ばかり取り扱っていると思つたら、その「空気」が落ちて着いてきた瞬間また新たな報道に飛びつくといった日本の報道の無節操さもここに原因があるのかもしれない。

一神教的世界からすれば無節操にもみえるかもしれないが、これを良い方に解釈すれば「その場その場の“空気”に従つての『巧みな方向転換』とも言え、また実に「本能的」な態度とも言える。しかし、イッタン「空気」に支配されてしまうと、本来相対的なものが絶対化されてしまう。こうなると、事実は巧みに隠蔽され、そこには虚偽が含まれる。

例えば、「電車内で立っているお年寄りに席を譲る人は善の人だ」という命題があつたとする。まず、これを西欧の一神教的世界観に基づく対立概念(相対)で把握すると、どうなるか。

「電車内で立っているお年寄りに席を譲る人は善の人だ」という命題を相対的に理解した場合、それは「席を譲らない人は悪の人だ」という認識と暗黙に対比させていることになる。相対的に認識しているということは、自己の内なる感情と他者を区別しているので

(注<sup>3</sup>) (先ほどのヒヨコの例では区別せず一体化していた)、そこに別の可能性を考える余地が生まれる。西欧では、絶対的な命題を掲げられるのは唯一無二の神だけなのだ。

ゆえに、西欧においては、唯一無二の神が提示した命題以外の命題には、矛盾が孕んでいることを認める。命題を絶対化すれば矛盾がなかったことになり、真実が闇に葬られ、命題そのものが機能しなくなる。「矛盾を矛盾のままに把握するとき、はじめてその命題は生かされ」るのだ。それが西欧の相対化だと山本氏は語る。

では、この命題を絶対化して把握し「空気」として共有されると、どうなるか。席を譲らない人は悪人となり、席を譲らない何か特別な事情が存在する可能性を排除してしまう。例えば、そこには「健康そうにみえて、実は重い病を抱えているのかもしれない」、「二日連続で徹夜して疲れているのかもしれない」といった可能性を無視し、そのような思考が排除されてしまう。つまり、もしこれらが事実であった場合でも、これらはなかったことにされてしまう。「空気」の支配によって覆い隠されてしまうと、他に検討できる様々な可能性が潰され、思考停止になってしまう。とにかく席を譲らない人は悪だ、という「空気」になる。これが意図的になされた場合は、まさに「空気」を利用した支配になり、虚構の世界に支配されてしまうことになる。

山本氏は、日本人がこのような絶対的な善と悪に分けて戦った近代の例を挙げている。いわく、明治維新後まもなく発生した日本最初の近代的戦闘である西南戦争を、日本史上初めて官軍(善)と賊軍(悪)という概念が表出した戦争だと述べている。西郷軍(賊軍)は「残虐人間集団」であるという記事(実は創作記事)が世に出て西郷軍が絶対的な「悪」だと把握されるようになると、西郷軍は「悪」であるという「空気」が醸成され、支配的になり、誰もそれに異を唱えることは出来なくなっていく。そして次に新聞紙上で行われたのは官軍が「善」であるという「空気」の醸成であった。人々の間に知らず知らずのうちに、官軍は善、西郷軍は悪だという絶対化された感情移入が蔓延り、完全にそのように規定されてしまい「空気」の支配が生じる。対象と感情が不可分になっている状態では、もうそこに相対化する余地はない。ここで新聞というメディアが「空気」の支配のカクチヨウを行い、「空気」の完全な支配を助長している様子が窺えるが、これは現代の日本のメディアにも見られるのではないだろうか。

話を戻して、山本氏は、現実にはこのような善と悪という二方向からの「空気」の支配ではなく、三方向、四方向支配が行われているので、「空気」は複雑な蜘蛛の巣のようになり、その巣に捕らえられると、誰もその空気に抗えなくなってしまうと述べている。

このような規定は、いかなる集団の間にも起こる。そして、この「空気」の支配ないし圧力とは、集団内の多数派の感情と結びついて醸成されたものに他ならない。「空気」が排他的な圧力として機能するのは、対象を善か悪かという感情によって規定し他の視点を排除し、そしてその規定を多数派が占めるという構図によって作り出される。これが学校内で起こればいじめとなり、村で起これば村

八分となる。

「空気」にアットウ<sup>h</sup>されてしまうと、それによって出された選択が非合理に満ちたものでも、現実には覆い隠されてしまい、「空気」に従えという同調圧力なるものが生まれ、それに屈せざるを得なくなり、それに抵抗しようとする者は排除の対象となる。

なぜ日本は「和」を重んじるといいながら排他的でもあるのか。そのメカニズムがおぼろげながら見えてきたのではないだろうか。しかし、西欧社会が徹底的に相対化するからといってカン<sup>i</sup>ヨウかといえ、そうではない。むしろ、強い排他性を帯びることがある。なぜなら西欧では善悪という対立概念が唯一絶対の神、つまり一神教的神学思想と結びついたとき、それはもはや対立概念ではなく絶対悪か絶対善で把握されるからである。それは決して一神教同士の宗教戦争ではなく、現代社会においてもみられる現象である。

例えば、欧米をはじめとする一神教の国では倫理観に関係するものを善悪ではつきりさせたがる傾向がある。 B、一神教の国にとつての倫理観は、そのほとんどが一神教的神学思想と深く結びついているからである。そして、そのような倫理観にかかわる問題が長きに渡って大衆を巻き込んで議論されている場合、それらの諸国では必ずと言っていいほど、賛成か反対に大衆の意見が真っ二つに分かれる。しかし、日本では反対に、長期の議論になればなるほど、その結論はうやむやになることが多い。

二〇一九年五月に、人工妊娠中絶をほぼ全面的に禁止するという、全米で最も厳しい法律がアラバマ州で成立したが、その典型的な例だといえるだろう。この州法は、妊娠初期の、性的暴行や近親相姦<sup>そうかん</sup>による妊娠も例外として認めないというあまりにも厳しいもので、中絶手術をした医師には重罪として最長で九十九年の禁錮刑が課されるという。しかも驚くことに、法案を提出したのは女性の州下院議員で、法案に署名したアラバマ州知事も女性である。署名した後アラバマ州知事は、「全ての命は尊く、また神から与えられた聖なる贈り物である」とコメントしており、また賛成派のある共和党議員は、「我々の法案は、子宮の中にあるタイ<sup>k</sup>ジは人間だと認定している」と述べている。このことから、この法律は典型的なキリスト教の「中絶は殺人である」という考えから導き出されたもの、特にカトリック教会もしくはプロテスタント教会の福音主義や根本主義といった保守派の神学的思想と結びついた法律だということがわかる。つまり、西欧の排他性と、日本の排他性は、その性質も、発生のメカニズムも全く異なるのだ。

(吉木誉絵『日本は本当に「和の国」か』による)

(注) 1 山本氏……『空気』の研究』などの著者である山本七平のこと。

2 アニミズム……すべてのものに靈魂が宿っているという考え方。

3 先ほどのヒヨコの例……引用部分より前で、飼っていたヒヨコに対して「自分と同じように寒がっているはずだから、体を温めるためにお湯を飲ませてあげよう」と思い、お湯を飲ませて死なせてしまった人の話を取り上げている。

問一 傍線部 a 「西欧は伝統的に対立概念的な物の見方をする」とあるが、それはどのようなことか。次の 1～4 のうちから最も適当

なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 15。

- 1 西欧では唯一無二の神だけが絶対的な存在だと捉えており、それ以外のものは価値が薄れてしまうということ。
- 2 西欧では唯一無二の神を信奉しているため、神以外の物事は絶対化せず別の可能性を考えるとということ。
- 3 西欧では感情と現実を完全に分離できるものだと捉えており、対象へ感情移入することが少ないということ。
- 4 西欧では感情と現実のように物事の側面を二つに分けて捉える傾向があり、日本人とは考え方が異なるということ。

問二 傍線部 b 「アニミズム的世界観」とあるが、「アニミズム的世界観」を持つ日本人にはどのような特徴があるか。次の 1～4 の

うちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 16。

- 1 本質的に共感性を重んじる傾向にあり、対象との不可分の関係を構築することで自己の存在を確立している。
- 2 自己と他者の境界が曖昧で他者に対して感情移入しやすいため、事実よりも感情を重んじる気質を持つ。
- 3 絶対的な存在がひとつに固定されないため原則として相対化はしないが、絶対的な存在がその時々で変化する。
- 4 絶対的な存在が無数に存在している状態であるため、うまくいけばすべての物事を相対化することができる。

問三 空欄 A ・ B に入る語句はなにか。次の 1～8 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

い。解答番号は 17 ・ 18。

- |   |     |   |     |   |     |   |      |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|------|
| 1 | さて  | 2 | でも  | 3 | 例えば | 4 | あるいは |
| 5 | つまり | 6 | だから | 7 | しかし | 8 | なぜなら |

問四 傍線部 c 「空気」とは、文脈上どのような意味か。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 19。

- 1 大義
- 2 大気の成分
- 3 論理
- 4 雰囲気

問五 傍線部 d・g・h・i・k と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は 20 ～ 24。

d 「イッタン」

- 1 タンカで運ぶ。
- 2 タンシヨを開く。
- 3 ガンタンに初日の出を見る。
- 4 タンドク行動をする。

g 「カクチヨウ」

- 1 無用のチヨウブツ。
- 2 県外にシユツチヨウする。
- 3 チヨウカ料金を払う。
- 4 ウチヨウテンになる。

h 「アツトウ」

- 1 春のトウライを待つ。
- 2 クラシックにケイトウする。
- 3 トウシを燃やす。
- 4 掃除トウバンになる。



i 「カンヨウ」

- 1 カンダイな心を持つ。
- 2 カンジンな話をする。
- 3 彼の行動にカンブクする。
- 4 カンリヤク化する。

k 「タイジ」

- 1 パンダはタイセイの生き物だ。
- 2 タイコの化石が見つかる。
- 3 葉にギタイする虫。
- 4 タイメンを気にする。

#### 問六

傍線部 e 「この命題を絶対化して把握し「空気」として共有されると、どうなるか」とあるが、どうなると説明されているか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 25。

- 1 そうであると信じていること以外に考えが及ばなくなり、その認識が確固として「正しい」ものとして扱われる。
- 2 ある一定の考え以外を否定することを繰り返し返した結果、別の可能性を検討して「正しい」結論を導き出すことができなくなる。
- 3 最初に示された方針にそぐわない考えはすべて排除され、雰囲気だけの空虚な「正しい」意見に支配されてしまう。
- 4 個別の細かい事情は無視されてしまい、全体の利益になるような考えだけが「正しい」ものとして支持される。

#### 問七

傍線部 f 「西南戦争」は、どのような例として取り上げられているか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 26。

- 1 「空気」の支配を甘く見た結果、戦争の当事者でない市民の声によって戦局が動かされることになった例。
- 2 一方に都合のいい情報を提供し、「善」と「悪」というわかりやすい二項対立を社会に完成させた例。
- 3 「善」と「悪」という基礎的な価値観でさえも、メディアの影響を受けることが広く認知された例。
- 4 メディアによって世論が意図的に操作され、戦況を反転させるほどの「空気」が醸成された例。

問八 傍線部「驚くことに」とあるが、筆者がそのようにいうのはなぜか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は27。

- 1 法案の内容があまりに厳しく、女性への差別的な意識を感じさせるものだったから。
- 2 第三者的に妊娠や中絶に関わる医師でなく、当事者である女性の意見が重視されたから。
- 3 中絶禁止という社会的影響の大きい法案を、男性でなく女性が提出したから。
- 4 女性に不利益を与える中絶禁止の法案を、女性の議員や知事が支持したから。

問九 傍線部「その性質も、発生のメカニズムも全く異なる」とあるが、それはどのようなことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は28。

- 1 西欧では宗教的な善悪の基準に照らして悪とみなされた者が排除されるのに対し、日本ではある「空気」が作られそれに従う者が多数になったとき、その「空気」に反する者が排除される。
- 2 西欧では宗教的な倫理観に基づいた絶対的な善悪によつて悪とみなされた者が排除されるのに対し、日本ではその時代ごとに変化していく「空気」に基づいて悪とみなされた者が排除される。
- 3 西欧では一神教的世界観のもと唯一神の教えに従わない者が排除されるのに対し、日本ではアニミズム的世界観のもと自分たちと異なる者が排除される。
- 4 西欧では唯一無二の神の思想に反する者が多数派であっても排除されるのに対し、日本ではたとえ多数派が非合理的な場合でも少数派が排除される。

### 問題三

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

さて、メディアによる人間の変容という視点に立つとき、近代社会を「視覚への偏重」が起きた時代として捉える見方があります。これは戦時下にナチズムからの亡命知識人として悲劇的な死を遂げた、ヴァルター・ベンヤミンの思想を先駆aとしています。

『ベンヤミン・コレクション』（ちくま学芸文庫）の第一巻に入っている、「パリ―十九世紀の首都」（一九三五年）と、「複製技術時代の芸術作品」（初稿は同年）をつなげて読むと、あたかもルッキズム（見た目のみの重視）のように人間の五感のうち視覚ばかりが突出していった、近代史の特異な展開に触れることができます。前者の論考では、十九世紀に万国博覧会のパビリオンやウィンドウ・ショッピングが誕生したことにより、物質を魅惑的に「見せる」ことで消費させようとする資本主義が、ナポレオン三世時代の都市改造のような、下層民の生活からも猥雑わいさつさを抹消しすみずみまで「見通そう」とする権力の誕生と並行していた史実が指摘されます。

写真や映画を論じる後者には、「写真においては展示価値が礼拝価値を全戦線において押しつけはじめ」（久保哲司訳）という有名な一節があります。たとえば写真がなかった時代、宗教的な文化遺産の価値は実際に訪れるまでの旅程や、文字通りの礼拝の実践を通じて、身体すべてで **A** 的に感じとるものだったはずでしょう。ところが大聖堂の写真が出回るようになると、人はそれらのコピー（印刷物）をもつばら **B** によって、かつてよりも浅薄に享受し始めます。

いわば触覚と比べたとき、視覚にはよくも悪くも「軽さ」が伴うんですね。物理的に「本物」の前まで当人を連れてこなくても、複写されたイメージを「どうだ！」と目の前に突き付けるだけで、広範な人々を動かせる。ただし、写真を目にした瞬間には突き刺さってショッキングなわりに、実際に現地へと赴けば全身で味わえただろう感動に比べると、持続性には乏しい。

今日のSNSなどでの炎上事件は、こうした視覚偏重の潮流が「言語・文章」にまで及ぶことで起きています。元々の発話者の文脈から切り取った発言だけが、スクリーンショット（画像）の形で出回り、反射的に「コイツは許せん！」という怒りの情動を刺激する。しかしそこには、発言した相手と向きあつて直じかに対話した際に得られたはずの、議論や相互理解の深まりはないわけです。

私たちの感覚は同時代の主流をなすメディアのあり方によって、かようになんらかの形で「歪ゆがんで」いる。しかし、それでは①歪む前には「本物」の事実や価値が、実体として存在していたのか。それとも②「本物」なんてそもそも存在せず、さまざま「見え方・感じ方」があるにすぎないのか——これは近代性モダンの特質を検討する多くの思想家が、議論を重ねてきた問いです。

メディア論の展開を追うと、一九八〇年代のバブル期に全盛となったのは、むしろ②の潮流でした。主に参照されたのは、フランス

の哲学者ジャン・ボードリヤールが『象徴交換と死』(原著一九七五年、邦訳はちくま学芸文庫)で提唱した、「シミュラクル」の概念<sup>c</sup>です。

大まかに説明すると、宗教施設を模写した絵画は、描かれた施設がまもっている「本物らしさ」の存在を前提にしていますよね。近代的な工場労働での生産も、これを作りなさいという見本の形で「本物」を示されて、それを忠実に複製するわけです。

しかし商品そのものよりも、「どんなイメージで広告されたか」の方が売れ行きを左右する高度消費社会では、もうなにか「本物」にあたるのがそもそもわからない。商品それ自体とは関係のない、キャッチコピーの巧みさやタレントのかわいらしさに人がお金を払うようになる、次のクルールのCMでは「前回のパロディであることから来る面白さ」が話題を集めて……のように、本物なるものがあるがなからうが、次第にどうでもよくなってゆく。

こうしたシミュラクルの議論は、「だから本当は価値なんかなくても、高く売れる土地や株券に投資して儲ければいい」と解釈されてバブルを煽った面があるため、平成初頭にバブルが弾けて以降は下火になります。①に近いニュアンスをより強く帯びていた(初出の時代もはるかに古い)ベンヤミンの思想が、日本で本格的なブームを起こすのはその後の一九九〇年代のことでした。

C、そうした流れの上で、令和初頭のコロナ禍をふり返ってみましょう。日本の場合、存在したのは「本物の危機」だったのでしょうか、それとも実体のない「危機のシミュラクル」だったのでしょうか？

最初の緊急事態宣言の発出は、安倍政権下の二〇二〇年四月七日で、このときはそこから約二か月間、本当に街路から人の姿が消える厳格な「自粛」が実現しました。D 政府の専門家会議(コロナ対策分科会の前身)が後日公表した資料にもあるように、実際には三月下旬の時点で新型コロナの発症者数はピークを越え、宣言発出時にはすでに急降下していたのです。

厚生労働省で会見した理論疫学者が自身の計算に基づき、「最悪の場合は四十二万人が死亡する」とまで予測したにもかかわらず、この最初の宣言の期間中、東京都で記録された一日の最多感染者数はわずか二五六人で、宣言解除時の全国での累計死者数も九〇〇人に達しませんでした。実はボードリヤールは、現実世界に対応物をまったく持たない、純粹に空虚なシミュラクルを生み出す営みを「シミュレーション」と呼んでいたのですが、ある意味でその予言が実証されたともいえるでしょう。

結果として、第一回目の「空振り緊急事態宣言」以降、日本政府のコロナ対策は、できの悪い広告代理店が作るCMのようなものになりました。新たな変異株が流入することに、自粛という「ブーム」を仕掛けようと狙って「今度のヤツはヤバイ！」と煽るものの、釣られて流行になびく消費者(国民)がいる一方で、聞き流して相手にしない人もいます。それが「本物」の概念なき消費社会における

シミュラークルの宿命ですから、あたりまえです。

二二年の一月に感染爆発を起こしたオミクロン株による第六波では、東京都での一日の感染者数が二月に一時二万人を超えましたが、しかし最初の緊急事態宣言時には人々は自粛しませんでした。オミクロン株は致死率がインフルエンザを下回るなど、ほぼ風邪に近いとする情報が広まり、自粛ブームに乗る人が減ったからです。それでもなお「感染者数が増えた！ 自粛が必要！」と本気で信じる国民が相当数——有識者も含めて——観察されたのは、ポストコロナを準備する上でも懸念されるべきことでした。

実害の低いオミクロン株でも、メディアが報じる感染者数のグラフに目を奪われて恐怖する人々の存在は、もし政府による「プロデュース」の仕方さえ巧みなら、今後はインフルエンザを始めあらゆる感染症を素材に「みなさん自粛が必要です、私権は制限しましょう」と煽ることができるという事態を意味します。換言すれば護憲・改憲の論争とはもはや無縁の次元で、日本はいつでも憲法を「骨抜き」にできる国になったわけです。

どうして、そんなことになってしまったのか。答えを探る上では、コロナ禍で多くの人が経験しただろう「週末、飲みにいかない？」「いや、感染者も増えているし、やめておこうか」といった会話に、実は大きなヒントが隠されています。

コロナ以外の感染症、たとえばインフルエンザ（一九八八〜一九九九年の大流行時の死者数は、国内で三万五〇〇〇人）のときには、私たちはそうした会話をしなかつたはず。飲み会を開くか否かは、テレビやネットで目にした感染者数のグラフではなく、なによりもまず自分の体調に聞いて、「ばっちりだし行こうぜ」「ちよつと調子が悪いから、インフルもあるしやめておくよ」と返事していた。

あきらかに私たちの五感のうち、**E** だけがかつてより過敏になっており、それがコロナパニックの過剰対応を引き起こしたばかりか、知られざる「立憲主義の危機」までも招いている。それがこの国の現状だといえるでしょう。

（與那覇潤『過剰可視化社会「見えすぎる」時代をどう生きるか』による）

（注） 1 ヴァルター・ベンヤミン……ドイツの文芸批評家、哲学者、思想家（一八九二—一九四〇）。フランクフルト学派。主著『複製技術時代の芸術』『パサーージュ論』ほか。

2 ジャン・ボードリヤール……フランスの哲学者、思想家（一九二九—二〇〇七）。ポスト・モダンの代表的な思想家で、主著は『消費社会の神話と構造』。

問一 傍線部 a・d の語句の意味はどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号

は 29 ・ 30。

a 「先駆」

- 1 他に先立って物事をする事
- 2 他に類がないほど優れている事
- 3 他よりも人々に認知されている事
- 4 他よりも気力にあふれている事

d 「下火」

- 1 物事が批判される事
- 2 物事が定番化する事
- 3 物事の勢いが弱まる事
- 4 物事の質が変わること

問二

空欄

A ・

B ・

E

に入る語句はなにか。次の 1～5 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。ただし、同じものを何回選んでもよい。解答番号は 31 ～ 33。

- 1 視覚
- 2 聴覚
- 3 嗅覚
- 4 味覚
- 5 触覚

問三 傍線部 b 「軽さ」が伴う」とあるが、それはどのようなことか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしな

さい。解答番号は 34。

- 1 視覚のみの情報はすぐにだれもが感動を得ることができる反面、実体のある存在だという認識が薄れて粗末に扱ってしまうという
- 2 視覚のみの情報は接するまでに必要な時間と労力を節約できる反面、経験を通して得られる価値は直に触れたときより低いという
- 3 視覚のみの情報は簡単に複写できたくさんの人に広められる反面、たったひとつそれしかないという本物の価値を薄めてしまうという
- 4 視覚のみの情報は多くの人に手軽に知ってもらえることができる反面、経験したときと同じようには感動や学びを得られないという

問四 傍線部 c 「シミュラクル」の概念」とあるが、それはどのようなことだと考えられるか。次の 1～4 のうちから最も適当な

ものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 35。

- 1 実体のある「本物」に似せたコピーが出回ること、
- 2 実体のある「本物」よりも、「本物」を記号化した情報の方が重要になり、そればかり扱うようになるということ。
- 3 実体のある「本物」についての情報よりも、「本物」の周辺に付随する情報の方が本質を表すということ。
- 4 実体のある「本物」が存在しなくても、「本物」と同じ構造を再現できれば、「本物」があるのと同じだということ。

問五 空欄 C・D に入る語句はなにか。次の 1～8 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしな

さい。解答番号は 36・37。

- |   |      |   |      |   |     |   |       |
|---|------|---|------|---|-----|---|-------|
| 1 | そして  | 2 | または  | 3 | ゆえに | 4 | しかし   |
| 5 | すなわち | 6 | たとえば | 7 | さて  | 8 | したがって |

問六 傍線部 e 「できの悪い広告代理店が作るCMのようなもの」とあるが、筆者は当時の日本政府のコロナ対策をどのように感じているか。次の1〜4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 38。

1 予測よりも感染規模が小さい中で緊急事態宣言が発出されるなど、日本政府のコロナ対策は現実の感染状況にふさわしくない危機感を演出しようとしていた。

2 不正確な予測に従って緊急事態宣言が発出されるなど、日本政府のコロナ対策は感染状況をわざと大きめに表現し、国民の感情を刺激しようとしていた。

3 すでに自粛が必要な感染状況下で緊急事態宣言が発出されるなど、日本政府のコロナ対策は感染状況の変化に対応せず自粛の必要性を捏造しようとしていた。

4 机上の空論に基づいて緊急事態宣言が発出されるなど、日本政府のコロナ対策は現実の感染状況を適切に把握していたとはいえず、情報操作に終始していた。

#### 問七

傍線部 f 「護憲・改憲の論争とはもはや無縁の次元で、日本はいつでも憲法を「骨抜き」にできる国になった」とあるが、それはどのようなことか。次の1〜4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 39。

1 コロナ禍で国民が政府の方針に従って自粛や感染対策を行ったことから、憲法改正の議論においても世論の方向性を操作できることが示唆され、政府の意向に沿う形で憲法改正が現実味を帯びた。

2 感染症対策においては、憲法に違反していないかという議論をしないままに私権の制限が行われたので、状況によっては憲法が形骸化してしまう可能性があると判明した。

3 コロナ対策として行われた私権の制限に対して、国民は強い反発を見せなかったため、改憲の議論においても政府の方針を国民が受け入れる道筋があるという希望になった。

4 コロナ対策では、現行の憲法下で政府の呼びかけによって私権の制限が実現したので、議論されているように憲法の条文を変えなくても私権の制限が可能だと実証されてしまった。



問八 この文章の表現についての説明として正しいものはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。

解答番号は 40。

- 1 重要なキーワードにだけ「」をつけて強調することで、論の中心となる内容を効果的に伝えている。
- 2 背景にある思想や概念について、他者の著作を引用した上で補足的な説明を加えてわかりやすくしている。
- 3 「ルッキズム」「シミュラクル」のような概念をカタカナで表記することで、専門性の高さを表現している。
- 4 筆者の意見の裏付けとなる感染者数のデータを具体的に示すことで、客観性を高め説得力を増している。